

令和元年度 地域スポーツ関係者等研修会(第2回)
第2回筑豊地区スポーツ推進委員協議会研修会 事業報告

1 事業名 令和元年度地域スポーツ関係者等研修会(第2回)
第2回筑豊地区スポーツ推進委員協議会研修会

2 期日 令和元年10月23日(水)

3 参加者 61名

4 日程

時程	内容
18:30	受付
18:50	開会行事
19:00	研修〈説明・実技〉 「誰もが気軽にできるスポーツの実践のために ～ゆるスポーツにチャレンジ!～」 久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学科 准教授 行實 鉄平 氏
20:30	閉会行事
20:40	

5 活動の実際

研修

(1) 内容

まず、久留米大学人間健康学部スポーツ医科学科の行實鉄平准教授より、「“創る”をコンセプトとした“ゆるスポーツ”」「“アダスポ”(※adapted sports)の時代が来る」について、誰でも楽しむことができるスポーツ創りや、地域でスポーツイベントの企画・運営に関わってこられた経験を元に説明を行いました。

実技では、6人ずつの10グループで、「身近にある物(新聞紙)で楽しむことができること」「障がいのある方(視覚障がいまたは肢体不自由)でも一緒に楽しむことができること」を意識した“ゆるスポーツ”を創る活動を行いました。その後、2グループずつがペアになり、それぞれが創った“ゆるスポーツ”にチャレンジし、お互いに良かった点や改良した方がいい点を話し合いました。

※adapted sports…ルールや用具の改変等により、性別や年齢、障がいの有無に関わらず、多くの人が今、もっている能力で楽しむことができる運動・スポーツ。

(2) 活動写真



参加者に説明を行う行實准教授



準備運動をする参加者



【“ゆるスポーツ”を創る活動】
使用する棒を新聞紙で作る参加者



【椅子を使った“ゆるスポーツ”】
椅子に座った2人がボールを新聞紙でキャッチする



【アイマスクを使った“ゆるスポーツ”】
目隠しでボールを探す（相手チームは鈴で妨げる）



【体験した“ゆるスポーツ”の評価】
それぞれが創った“ゆるスポーツ”を評価する参加者

(3) 参加者の声

- それぞれの地域だとか、年齢、対象者によって、やり方を工夫すればよいのだということが分かりました。
- 変な先入観だけで～ができないと考えるのは良くないと思いました。今回、身近な物と、条件を加え、全員が楽しめる競技を作ることを行いました。なんだか子どもの頃に帰ったようでした。
- 新たなスポーツを作ることの難しさ、作ったスポーツで盛り上がってくれた時のうれしさなど楽しい研修になりました。

6 全体をとおして

今回の研修会の目的は、地域のスポーツにかかわる指導者を対象に、説明や実技をとおして、誰でも気軽に参加できるスポーツについての知識や技術を身につけ、地域スポーツを推進する者としての資質の向上を図ることでした。参加者からは「それぞれの地域だとか、年齢、対象者によってやり方を工夫すればよいのだということが分かりました。」「小学校の親子レクの指導の際に使ってみたい（今回自分達で考えたものや、他のグループが考えたもの）」などの感想があり、誰でも気軽に参加できるスポーツについての知識や技術を学び、地域で活用するきっかけにつなげることができた研修となりました。